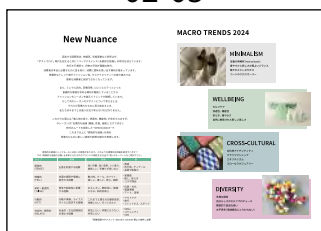


01



・カバーは、日本全国の福祉施設に在籍するアーティストと共に、新たな文化の創造を目指すHeralbonyとベルメゾンのコラボレーション企画、アーティストの笹山勝美さんの作品「無題(どうぞ)」です。色とりどりの丸や線は筆跡が紙からはみ出ており、彼女の力強さとおおらかさが表れています。

02-03



・今シーズンの情報を一通り収集・整理して次のシーズンを考え始めた時、春夏は着用するアイテムが少ないこともあますが、全てが見慣れたものを感じてしまいました。ミニマル、ナチュラル、センシュアル、ユーティリティ、デジタルの影響、クラフトやフォークロア、多様性や個性の表現...。大きな流れとしてシーズンを越えてトレンドが継続・多様化することは、社会的潮流や価値観の変化からも至極当然で自然な流れです。今シーズンも前シーズンからの流れがさまざまなアプローチで発展しています。時代のムードや消費者インサイトを反映した“新しいニュアンス”を与えて、「何か見たことがある、あるいは見慣れたもでも、何とも新しく見えて共感できる」と思わせるクリエイションがシーズンのキーとなります。

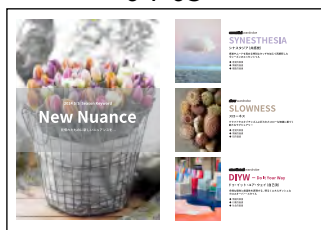
・その“新しいニュアンス”の表現には「感情的な価値」が重要な要素となります。

・また、「感情的な価値の分類」でSDGsのような企業活動は、RELATEに分類される感情的な価値として訴求することができます。この分類は参考になります。

＊Permacrisis / パーマクライシス：英語辞典「コリンズ」を出版する米出版大手ハーパー・コリンズの英国法人が、2022年頻繁に使われた代表的な言葉として発表。辞典に新たに加わった言葉で「長期間続く不安定な状態」と定義。

・2024年のグローバルなトレンドとして4つマクロ・コードを取り上げました。過剰さではなく、本当に必要なものに目を向ける意味ある消費傾向が反映されています。この他に、「デジタルの影響」も「グランジ・パンク」などが上がっています。

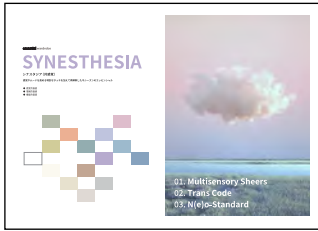
04-05



・シーズン・キーワード：NEW NUANCE—見慣れたものに新しいニュアンスを...。既存のコンセプトや核となるアイデアやスタイルに新しいニュアンスを与えて進化させます。

・2024年春夏 シーズンワードローブのテーマとコンセプト。

06-07



・シナスタジア（共感覚）とは、1つの感覚刺激に対して通常感覚だけでなく、他の感覚も覚える現象。シナスタジア・デザインとは、1つの物事を1つの視点だけで見るのではなく、複数の視点から物事を見て深みを与える。

08-09



・Muitisensory：多感覚

・シアー素材やシアー・レイヤーはここ数シーズン、春夏の定番テーマとして定着しています。23年春夏も多様な質感やスタイリング提案が打ち出されていることから今シーズンは特に、視覚、触感といった感覚的な要素、クール、スポーティ、フェミニン、センシュアルなムードといった多様な情緒性で多感覚に訴える提案がキーとなります。

・身体を包み込むようなアイテムではなく、ボディラインに添うフィットしたシェイプで無造作に覆ったファジーな透け感と色の重なりがポイント。

・意図的に微妙な色で重ねたり、異なる質感の組み合わせなど、感性に訴えるシアーレイヤード・スタイルを提案。スペインのブランド@eiko_aiが参考になります。

*Oの写真は、2004SSの Helmut Lang、2023SSの MIUMIU に通じるムードが感じられます。

10-11



・ユーティリティも実用的な服を求める傾向を反映して継続するテーマですが、多様化、進化が加速しているカテゴリーでもあります。

・ファッションでの「機能」は「機能美」である必要があります。今シーズンは微妙な光沢感や落ち感のある素材と爽やかな色、しなやかなシルエットで、無骨さが特徴でもあるカーゴ・コードを超えた、軽やかなマイルド・カーゴにモデルチェンジします。

・シーンやカテゴリー、ジェンダーなどの概念を超越したデザイン観で、新感覚のユーティリティ・スタイルを提案。

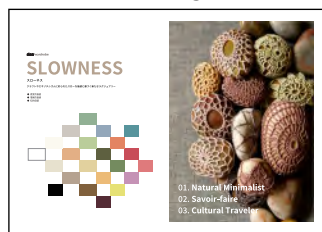
*「Fenty Skin」はリアーナがローンチした、あらゆる肌色と肌タイプに合うシンプルなスキンケアライン。クリーンでビーガン、ジェンダーレス、スマートでモダンな環境に配慮したパッケージ。

12-13



・定番の再解釈を反映したテーマ。定番の再解釈では、解体や再構築のアプローチがよく使われますが、デザイン・ノイズを感じさせない着やすさと新しさの程よいバランスが大切です。これらの写真のように、しっかりスタンダードなシャツ襟でありながら今シーズン注目のディテール（ストリング、ポケット、スリットなど）や、エプロンスカート、ポケットベルトを使ったスタイリングで定番シャツをアップデートします。

14-15



・意味あるものを求める傾向はラグジュアリーへの価値観にも影響を与えています。ラグジュアリーは過剰なものからより心を充足するスローなものへと変化していきます。

16-17



・自然と繋がる喜びや幸福を求める傾向は今後も継続し、自然と調和した本質的でシンプルな美しさが探求されていきます。

・自然由来のマテリアルや染色方法を使った感情に訴える心地よい質感の素材、穏やかなミニマリスト的雰囲気が漂うリラックスした簡素なシルエット。

・今シーズンは、キッチンクロスやテーブルリネンのようなストライプやチェックにフォーカスします。アイテムではエプロンドレスやオーバーオール、サンドレスといったストラップ付きのアイテムやセットアップに注目。

*Stella McCartneyの「STELLA」は、植物や果物、海水や海藻などの成分を取り入れて、自然と調和したナチュラルな美しさを提供しています。

18-19



・サヴォアフェール（職人技）は、24SSのトレンド情報で頻繁に出てきたキーワードです。クラフトの豊かさには、ずっと大切にしたいと思う心のフックに引っかかる何かがあります。

・ナチュラルな素材のシンプルで洗練されたシルエットに、現代的に再解釈したハンドクラフトのプレシャス感を加え、マインドフルなラグジュアリーを提案します。

*アングレーズ刺繍：イギリス刺繍のフランス語 Broderie Anglaise

*シフリー刺繍：シフリー機と呼ばれる刺繍機を使用したアイレット刺繍。針数が多く密に刺繍をしているため柄が立体的にクリアに見える。

*スラブ諸国：東スラブ（ロシア・ウクライナ）、西スラブ（ポーランド・チェコ）、南スラブ（ブルガリア・セルビア）

20-21



・今シーズン、モダンでアーティスティックにアレンジされた異国情緒あふれるエスニックプリントが注目を集めそうです。デイリースタイルにアクセントとして気軽に取り入れられるアイテムやスタイリング提案がポイントです。

・「PROUD SOUTH」 curated by Lidewij Edelkoort：アートやファッション、写真、スタイリングなど幅広いエリアで広がりを見せる南半球のクリエイティビティー。カラフルさと表現力の豊かさ、今まで忘れられていた視点、ものづくりの背景など、今こそ出会い、知り、感じるべき作品や人を集めたブック (TREND UNION の紹介ページより抜粋) <https://shop.trendunion.jp/items/68954395>

22-23



・混沌としている世の中だからこそ、自分を突き動かすエネルギーを感じるモノ・コトに共感を覚えます。その1つが、多様な個性と創造性を表現するDIYWのテーマの明るくエネルギッシュなクロスオーバースタイルです。

24-25



・アメリカではファッションやカルチャーの発信地としてマイアミが注目を集めています。マイアミでも開催されるようになったアートバーゼルがマイアミをクリエイティブな街という認識を拡大させました。ラグジュアリーとアートが融合するマイアミのショッピング地区 Miami Design District に新たなショップをオープンさせるブランドも増加。開放感を感じさせてくれるビーチカルチャーはポストコロナ時代の外向きの感情に呼応します。今シーズンはマイアミにスポットを当て、マイアミらしい爽快な雰囲気、マイアミ特有のポップ感のあるカラーやアートにインスパイアされた陽気でアートフルなスタイルを提案します。

*Miami Design District : <https://www.miamidesigndistrict.net/>

・多様性、創造性、自己表現を尊重するアートフルなコラボレーションも検討。

*ERALBONY : <https://heralbony.com/>

*KIDS EARTH FUND : <https://www.kidsearthfund.jp/>

26-27



・さまざまなスタイルやジャンルを自由にミックスした軽やかなアーバン・ボヘミアンスタイルの提案。

・土っぽさやヒッピームードを抑えたボヘミアンタッチがポイント。軽やかなシア素材にインドから着想を得たテキスタイルやビーズ装飾、モダンなボーホパターンでボヘミアンスタイルをアップグレードします。

・90年代デビュー当時に回帰したISABEL MARANT 23SS コレクションが参考にになります。

・インド刺繍が売られています。手作り作家を中心に、アクセサリーや小物にアレンジする人が増加して、CREEMA(クリーム) やユザワヤなどで取扱が拡大しています。

28-29



・スタイル ライク ユーはその名の通り、フリーマインドで自分の好きを表現する多様性へのトリビュート(賞賛、贈り物)です。このテーマではその表現の1つとして、デニムや90年代のスポーツミックス、Y2Kスピリットにフォーカスを当て、あらゆるカテゴリーをクロスオーバーさせたスタイルを提案します。

・落ち着いた色合いをベースに、個性的なカラーでアクセントを加えるのがポイントです。